

学校だより

やさしい子 たくましい子 考える子

12月号



# 黒門

発行日 令和4年12月1日

発行者 台東区立黒門小学校

校長 石田 隆

## 「頑張っているね」と褒め、「次は頑張ろうね」と励ます

副校長 岩崎 公慈

### 学芸会 多数の参観ありがとうございました

先日の学芸会は3日間で700名に迫る参観者を迎えることができました。児童は練習の成果を発揮し、堂々と工夫を重ねた演技を披露してくれました。参観された皆様の大きな拍手に児童も誇らしげな表情でした。この成果と頑張り在今后の学校生活に生かしていけるようにしたいと思います。

当日までの励ましとご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

### 子供の努力の過程を認め、褒めていきましょう

さて、児童が頑張ったこと、頑張ろうとしていることを具体的に褒めることはとても大切なことです。これは大人も同じで、褒められれば嬉しいし、努力を認められれば、次も頑張ろうと思うものです。このほど、神戸大学と同志社大学の教授が、子供時代に親から受けた「褒め方」と「叱り方」のあり方が、成人後の自己決定度や安心感、さらに、長期的な視点で物事を考える習慣や倫理的行動に与える影響についての研究報告を発表しました。アンケート調査による分析を行った結果、褒め方では、「頑張ったね」と努力を評価する言葉が、「えらいね」と能力を評価する言葉や、結果に対し「褒美」をもらうことより、ポジティブな影響を残していることが分かったとのことです。また、叱り方では、「次は頑張ろうね」と励ます言葉が、「どうしてできないの」と叱責したり、「罰」を課したりすることに比べてより良い影響を与えていることが分かったとのことです。詳細は

[https://www.kobe-u.ac.jp/research\\_at\\_kobe/NEWS/news/2022\\_10\\_26\\_01.html](https://www.kobe-u.ac.jp/research_at_kobe/NEWS/news/2022_10_26_01.html)

で読むことができますのでぜひ、ご覧ください。

良い行い、良い結果に褒美を与えることや悪い行いや怠慢に罰を与えることは子供が変わるといふ点では即効性があります。余裕がないときなどは「つい」やっしまいがちになります。私自身、一人の親として反省することも多いです。しかし、将来的に、本人の成長、ジリツ(自立・自律)を考えれば、やはり頑張り認め、褒め、頑張っていけるように応援することが大切なのは明らかだと思えます。「頑張っているね」と褒め、「次は頑張ろうね」と励ますことを常としていきたいと感じています。



11月17日(木)に台東区の姉妹都市である宮城県大崎市の伊藤康志市長様をはじめ関係の皆様が来校されました。

台東区内の小中学校等に新米が贈呈され、全校を代表して本校6年の児童が受け取り、お礼の言葉を述べました。

新米は24日(木)の給食でおいしくいただきました。